

神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会		
開催日時	令和5年10月31日(火)		
開催場所	神奈川県立麻生支援学校会議室及びオンラインで繋ぐ各会場		
(役職名) 出席者	(会長) 佐藤委員、(副会長)岡本委員、久保田委員、小牧委員、谷委員、永石委員、山口委員、山崎委員 <学校職員> (副校長) 山岸、(教頭) 森本、原島、(事務長) 田村、(総括教諭) 松岡、寺山、杉本、宮澤、藤原、栗澤、小川、鈴木		
次回開催予定日	令和6年2月16日(金) 予定		
問合せ先	所属名：麻生支援学校、担当者名：森本 智子 電話番号：044-980-4855 ファックス番号：044-986-2517		
下欄に掲載するもの	・ 議事録	議事概要とした理由	
会議経過	<p>1 開会 2 挨拶 (麻生支援学校 山崎校長) 3 協議会 <学校評価部会> (1) 副校長より、令和5年度学校評価(中間評価)について、資料2に沿っての説明と、知的障害教育部門の中学部が取り組んでいる通学支援の学習についての紹介を行った。 (2) (1)についての意見交換 ・ 事業所への一人での通所に向けては、学校と事業所の連携と、地域やバス会社のあたたかい対応が求められる。 ・ 登下校の練習は個別のプロジェクトと捉えていくことが大事。 (3) 令和6年度から令和9年度までの4年間の学校教育目標(案)について、資料3と資料4に沿って副校長より説明を行った。 (4) (3)についての意見交換 ・ ICT支援について、教員の勉強が必要になる。教育課程を見直しをして、時間を作り出せるよう改善してほしい。 ・ 災害時の対応について、地域の協力をいただくことが大事になる。 ・ 医療的ケア児の受け入れが保育園でも広がってきている。30年前の学校での準備と同じ状況。緊急時、訪問看護の方との直接のつながりはあるか。 ・ 緊急時の対応はマニュアルに沿って行い、基本的には保護者との情報共有が主となる。 ・ 地域の施設として、高齢者や小中学校の児童生徒と麻生支援学校の児童生徒との交流の機会を作り出せないか、考えている。 ・ 4年間の目標についてはまだ粗い段階である。アイデアをいただきブラッシュアップさせていく。</p> <p><切れ目ない支援部会> (1) 「つながるあさおプロジェクト進行中」について、第1回で説明した“学校として進めたいこと”、“協力していただきたいこと”の進捗状況を、パワーポイント(別紙資料)に沿って総括教諭より報告した。 (2) スクールバスの安全について、委員の意見を請うために安全管理GLよ</p>		

り説明を行った。

(3) 意見交換

- ・小学校や関係機関とつながることで、スクールバスが動かなくなった時に、暖をとる、何か食べる、トイレを借りるというようなことができ、保護者も安心できる。
- ・LINEは災害時に強い。活用を始めた町内会がある。災害時以外の連絡でも使うようにしている。避難所まで行かなくても情報が得られる。
- ・子ども110番の活用はどうか。→スクールバスの停車場所が必要になる。
- ・小田急や東急などの電鉄と共有させてもらうのも良いと思う。
- ・つながるあさおプロジェクトについては、“企業と語ろう”や“木工教室”などにしっかり落とし込まれていてよい。
- ・ハロウィンのポスターを提供するというのも参加の一つと捉えられる。児童生徒の好きなこと、強みを生かす形が外に伝わっている。
- ・教員の手作り教材が素晴らしい。教材を作る時間の確保を是非してほしい。

4 会長の言葉

闊達な協議に感謝。総括教諭の発表を聞いて、子どもたちが共生社会の担い手となる取り組みがされていることが伝わってきた。うまくいかないことも、学校応援団が支えていく、自分たちが解決していくという気持ちで、これからも協力していただきたい。次回も引き続きご意見をお願いします。

5 事務連絡

6 校長の言葉

これからの4年間の学校教育目標については、具体的な方策にご意見を取り入れて、次回ご提示する。つながるあさおプロジェクトにも励ましのお言葉をいただいた。日課表の変更、災害時のスクールバス対応に向けての自治体、行政との連携など、今後お伝えできればと思っている。

7 閉会

以上